レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2024 年 4 月 1 日

殿

広島太平洋共同生コン株式会社
広島市中区南吉島２丁目４－４１
TEL 082-244-5708
FAX 082-247-5082

配合計画者名　池内　信博

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	標準配合3月1日～5月31日・10月1日～12月10日　左記以外の期間備考欄に記述
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－ kg/㎥
	水の区分	使用材料欄に記載	コンクリートの温度	最高・最低 － ℃
			水セメント比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/㎥
	塩化物含有量	0.30 kg/㎥以下	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/㎥
	呼び強度を保証する材齢	28 日		
	空気量	4.5 %	流動化後のスランプ増大量	－ cm

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－
混和材①	製品名	－	種類 －	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq % －
混和材②	製品名	－	種類 －	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq % －

骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリシリカ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲 %
細骨材	①	加工砂	広島県呉市蒲刈町田戸	A	化学法	－	2.80	－	2.55	－
	②	砕砂	大分県津久見市	A	化学法	5以下	2.80	－	2.66	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	広島県呉市蒲刈町向	A	化学法	20～ 5	6.70	－	2.72	1.0±1.0
	②	砕石	大分県津久見市	A	化学法	20～ 5	6.70	－	2.72	2.0±1.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10L	種類	AE減水剤標準形I種	Na_2Oeq % 1.3
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	① 0.000 % ② 0.000 %	水の区分	上水道・上澄水	目標スラッジ固形分率	－ %
回収骨材の使用方法	細骨材 －	粗骨材	－	安定化スラッジ水の使用の有・(無)	

配合表 (kg／㎥)　下段（ℓ／㎥）

セメント	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③
311	－	－	171	574	245	－	596	397	－	1.56	－	－
102	－	－	171	225	92	－	219	146	－	－	－	－

水セメント比	55.0 %	水結合材比	－ %	細骨材率	46.5 %

細骨材混合比(質量)　加工砂:砕砂=70:30
粗骨材混合比(質量)　粘板岩砕石:石灰岩砕石=60:40

備考　修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更いたします。
夏期6/11～9/30(2.33kg/㎥)、冬期12/11～3/10(1.24kg/㎥)

骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。

ＪＩＳ該当品

配 合 計 算 書

呼び方	ｺﾝｸﾘｰﾄの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	ｾﾒﾝﾄの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応抑制対策の方法	BB
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	水の区分	使用材料欄に記載	ｺﾝｸﾘｰﾄの温度	最高・最低 － ℃
			水ｾﾒﾝﾄ比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日		
	空気量	4.5 %	流動化後のｽﾗﾝﾌﾟ増大量	－ cm

変動係数(V)　当社実積値	V = 10.0(%)
配合強度(m) α1 = 0.85÷(1 − 3.000V ÷ 100) =1.214 α2 = 1.00÷(1 − 2.000V ÷ 100) =1.25 α１、α２の最大値を割増し係数とします。 m = α × SL = 33.8 以上より、配合強度(m) = 33.8(N/mm²)とします。	 α = 1.250 m = 33.8(N/mm²)
水セメント比(W/C) W/C = 27.3 ÷(33.8 + 15.8)× 100 = 55.04(%)	W/C= 55.0(%)
単位水量(W)　当社実積値	W = 171(kg/m³)
単位セメント量(C) C = W ÷ W/C × 100 = 171 ÷ 55.0 × 100 = 311(kg/m³) Vc = C ÷ ρc = 311 ÷ 3.04 = 102(ℓ/m³)	 C = 311(kg/m³) Vc= 102(ℓ/m³)
細骨材率(s/a)　当社実積値	s/a= 46.5(%)
骨材の絶対容積(Va) Va =ｺﾝｸﾘｰﾄ容積−(W + Vc +Vair) = 1000 −(171 + 102 + 45)= 682(ℓ/m³)	 Va= 682(ℓ/m³)
単位細骨材量(S) Vs =Va×(s/a÷100)= 682 ×(46.5÷100)= 317(ℓ/m³) 混合比 70 : 30(質量比) 容積比に換算 27.451 : 11.278 Vs1 = Vs ×(27.451 ÷(27.451 + 11.278))= 225(ℓ/m³) Vs2 = Vs − Vs1 = 92(ℓ/m³) S1 = Vs1 × ρs1 = 225 × 2.55 = 574(kg/m³) S2 = Vs2 × ρs2 = 92 × 2.66 = 245(kg/m³)	 Vs= 317(ℓ/m³) Vs1= 225(ℓ/m³) Vs2= 92(ℓ/m³) S1= 574(kg/m³) S2= 245(kg/m³)
単位粗骨材量(G) Vg= Va − Vs = 682 −317 = 365(ℓ/m³) 混合比 60 : 40(質量比) 容積比に換算 22.059 : 14.706 Vg1 = Vg ×(22.059 ÷(22.059 + 14.706))= 219(ℓ/m³) Vg2 = Vg − Vg1 = 146(ℓ/m³) G1 = Vg1 × ρg1 = 219 × 2.72 = 596(kg/m³) G2 = Vg2 × ρg2 = 146 × 2.72 = 397(kg/m³)	 Vg= 365(ℓ/m³) Vg1= 219(ℓ/m³) Vg2= 146(ℓ/m³) G1= 596(kg/m³) G2= 397(kg/m³)
単位混和剤量(Ad) Ad1 = C × 添加率÷ 100 = 311 ×0.500÷100= 1.56(kg/m³)	 Ad1= 1.56(kg/m³)

配合表 (kg／m³)

ｾﾒﾝﾄ	混和材①	混和材②	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	混和剤③
311	－	－	171	574	245	－	596	397	－	1.56	－	－

水セメント比	55.0 %	水結合材比	－ %	細骨材率	46.5 %